

手元供養

身近に置いて、絶えず面影を偲びたい。

何らかの事情でお墓を持ってなかったり、お墓が遠いなどの理由で墓参ができない。その代わりとして、遺骨を手元に置いて供養する人も増えている。従来の仏壇や位牌に代えて、普段の暮らしにさりげなくとけこめる形に変えた手元供養品がいろいろ開発されている。一見して骨壺とはわからない美しいガラス瓶やオブジェに納めたり、遺骨を粉にして固めてメモリアルプレ

ートに作り替えたりもされている。また、故人への思いが非常に強く、いつも身近に感じたい、近くにいて見守っていてほしいという人には、遺骨の一部を収納できるカロートペンダントやロケットが好評。最近では、遺骨をダイヤモンドに変える技術も開発されている。指輪やペンダントなどに加えて、身につけられ、唯一無二の存在であることから、注目されている。



エターナルペンダント

遺骨から作られたファインセラミックプレートを貴金属でデザインしたメモリアルペンダント。プラチナ39万9000円、K18 24万1500円、シルバー15万7500円。

エターナルジャパン ☎03・3846・4380



おもいで碑

中に遺骨が納められる、清水焼のお地藏様。芸大准教授がデザインした愛らしい表情と、両掌に包み込める形状が、癒される。こげ茶、ベージュ、朱の3色。高さ12cm 7万円 京都ひろくに屋 ☎075・315・3370

実例

60年、二人で暮らした母の遺骨をダイヤモンドに変えて手元供養に。

2007年の秋に91歳のお母さんを見送った、野村由利さん。遺骨をダイヤモンドにしてペンダントを作り、供養をしている。「3歳で父が亡くなり、お父様のお墓に入るのは遠慮したいというのが母の口癖でした」。母娘のお墓を作ろうにも、由利さんが独身で跡を継ぐ人がいないので難しい。ひと月ほど過ぎた頃に、新聞でアルゴダンザのことを知り、何か縁を感じて迷わず決断。今は肌身離さず身につけ、観劇や旅行にも一緒に出かけて、思い出を共有している。メモリアルダイヤモンド 0.16ct～0.25ct 39万9000円～。アルゴダンザ・ジャパン ☎0120・253・940



遺骨ダイヤモンドは淡い水色の発色に。